

被災した無形民俗文化財と 地域復興における研究の役割

―東日本大震災に伴う宮城県委託調査事業の報告―

被災した民俗芸能・祭礼復興の多様性

―事例の比較を通して―

滝澤克彦（東北大学東北アジア研究センター）

東日本大震災で被災した民俗芸能用具の新調の意味

小谷竜介（東北歴史博物館）

東日本大震災復興過程における

民俗文化財調査体制構築とその社会的意義

高倉浩樹（東北大学東北アジア研究センター）

コメンテーター：梅野光興（高知県立歴史民俗資料館）
総合討論司会：飯高伸五（高知県立大学文化学部）

主催：東北大学東北アジア研究センター共同研究

「東日本大震災後の復興過程に関わる地域社会比較と民族誌情報の応用」

共催：こうちミュージアムネットワーク、高知県立大学文化学部

協賛：高知人文社会科学会



日時：2013年12月2日（月）
13時～17時

場所：高知県立大学
永国寺キャンパス
2階会議室

*駐車スペースがございません。
公共交通機関をご利用ください。

問い合わせ：088-873-2764
（高知県立大学文化学部副手室）

報告者紹介（報告順）

滝澤克彦（たきざわ・かつひこ）

東北大学東北アジア研究センター教育研究支援者。社会主義崩壊後のモンゴル国における宗教状況、特にキリスト教の流行現象について宗教学的的研究を行っている。また、日本でも東北地方において山の神信仰やオシラサマ信仰などの民間信仰調査を行ってきた。震災後は、被災した無形民俗文化財調査プロジェクトの事務局を務め、災害後における祭礼や民俗芸能の役割について調査を進めている。主な業績に、「社会主義と宗教の記憶－モンゴルにおける家庭内祭祀の持続と変容を中心に」（高倉浩樹・佐々木史郎編『ポスト社会主義人類学の射程』国立民族学博物館、2008年）、『ノマド化する宗教、浮遊する共同性－現代東北アジアにおける「救い」の位相』（編著、東北大学東北アジア研究センター、2011年）などがある。

小谷竜介（こだに・りゅうすけ）

東北歴史博物館学芸員。宮城県立の博物館で10年間勤務後、東日本大震災の発災時は県教育委員会で文化財保護行政にあたった。震災後は有形、無形の文化財の復旧に関わっている。専門は日本民俗学、民俗芸能研究で、東北地方の沿岸域の生業と信仰を主要な関心に研究を行っている。主な業績に、「河口で行うサケ漁－太平洋側河川の事例より」（『東北歴史博物館研究紀要』4、2003年）、「被災地の文化遺産を保護するための試み」（日高真吾編『記憶をつなぐ』千里文化財団、2012年）、『東北地方の信仰伝承－宮城県の年中行事』（共編、東北歴史博物館、2005年）などがある。

高倉浩樹（たかくら・ひろき）

東北大学東北アジア研究センター教授。社会人類学の観点からシベリア先住民の研究をおこなってきた。近年は気候変動と地域住民の適応についての環境人類学的調査や応用映像人類学的研究を行っている。震災後、大学人の被災体験を記録化するプロジェクトを立ち上げた後、民俗文化財調査をふくめた災害人類学的研究を行っている。主な業績に『極北の牧畜民サハ－進化とマイクロ適応をめぐるシベリア民族誌』（昭和堂、2012年）、『極寒のシベリアに生きる－トナカイと氷と先住民』（編著、新泉社、2012年）、『聞き書き 震災体験－東北大学 90人が語る3.11』（東北大学震災体験記録プロジェクト編、高倉浩樹・木村敏明監修、新泉社、2012年）などがある。